

## 家庭学習について

4月から学力向上にむけ、各学校で校内研究を中心にいろいろな取り組みを行っていただいていることだと思います。また、夏季休業中には7月までの取り組みについて成果と課題を分析し、改善策が話し合われることでしょう。そこで、9月からの学力向上に向けた改善策の一方策として、ぜひ家庭学習（宿題と自主学習）にも注目してみてください。



自学の紹介コーナー

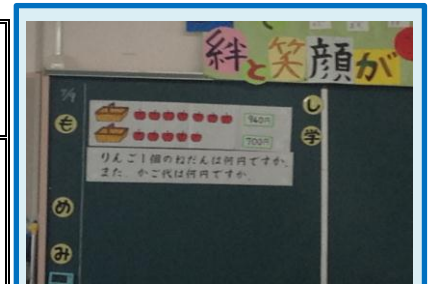
- ① **教師が課す復習や予習などの宿題**は、基礎的・基本的な知識・技能を定着させるだけでなく、授業と家庭学習の連続性が図れるので、学習意欲の向上につながります。効果的な復習・予習（①ねらいを明確に②復習：その日の内容を、予習：授業に生かせる内容を③必要に応じて個別対応）が大切になってきます。
- ② **自分で課題を見つけ取り組む自主学習**は、自分の課題を克服したり、興味関心に応じて力を伸ばしたりすることができます。自分で決めた内容を自分が決めた量や時間で取り組むことが大切です。

自主学習の手立て	①学習の仕方を理解させる	②学習モデルを示す	③きちんと目を通して評価を返す
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間と場所の習慣化</li> <li>○ノートの約束（例 1日1ページする・日付と教科名を書く・振り返りの感想を書く等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自主学習内容の例示 「A(基本):教科書やドリルをする」 「B(応用):辞典や資料集、新聞写し」</li> <li>○児童の興味関心に合わせた取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○努力を認める・まとめ方の良さをほめるなどの評価コメント</li> <li>○通信や掲示欄、帰りの会での紹介</li> <li>○家庭への連絡等</li> </ul>

## シリーズ！学力向上のための手びき【見通す】編

よい授業が成立する条件の一つに《学習内容や活動の見通しがもてる》ことが挙げられます。子どもたちに「わかった！できた！」という喜びを実感させるためにも【見通す】過程において、以下の点に気を付けて授業を組み立てましょう。

①	<b>1単位時間の活動の流れを具体的に示す</b>	○「何をどんな順番で・どれくらいの時間で」といった流れを提示することは、子どもが見通しをもって活動をする上で、とても大切なことです。
②	<b>結果予想や解決方法の見通しをすべての子どもがもつ</b>	○結果の予想を立てて学習に臨むことは意欲的な学びにつながります。 ○解決方法の見通しをもたせ、すべての子どもたちがこの方法でやってみようと思う意欲をもたせることが大切です。
③	<b>見通しをもてない子どもに対する対応</b>	○各活動では「終わったら何をやる」という内容までを伝え、途中で指示の追加をして子どもの思考を分断しないように気をつけましょう。



**学習過程を示した板書**  
 ⑤問題・⑥めあて・⑦見通し  
 ⑧調べる・学び合い  
 ⑨まとめ・⑩練習

### 〇〇で子どもたちに合図を・・・

先日、子どもたちが気持ちよく指示通りに動いている風景を見ました。その先生は準備をして静かに待つように指示を出された後、音楽を奏でられたのです。音楽が鳴り終わる間に準備をやり遂げるよう、予め約束ができていたようでした。そして、席についた子どもを誉めてあげると子どもは喜んで次の活動に取り組みました。先生が大きな声を発することもなく、先生も子どもたちもにこにこ笑顔で行動し、それを見ている自分も、心が和みました。発達段階に応じた指導を行うことが大切であることを改めて感じる場面でした。

